

世界と日本の子どもの本から3 ～子どもの本の翻訳を考える～



日時：2014年5月17日（土）
午後2時00分～午後5時00分（予定）

会場：青山学院女子短期大学、教室L301

対象： 一般（中学生以上）
参加費： 500円
定員： 150名 ※事前申し込みが必要です（申し込み方法は裏面）

シンポジウム「子どもの本の翻訳を考える」

パネリスト：アーサー・ビナードさん（詩人、翻訳家・日本語）
宇野和美さん（翻訳家・スペイン語）
酒寄進一さん（翻訳家・ドイツ語）
野坂悦子さん（翻訳家・オランダ語）
灰島かりさん（翻訳家・英米語）

進行役： さくまゆみこさん（翻訳家・英米語・アフリカ）

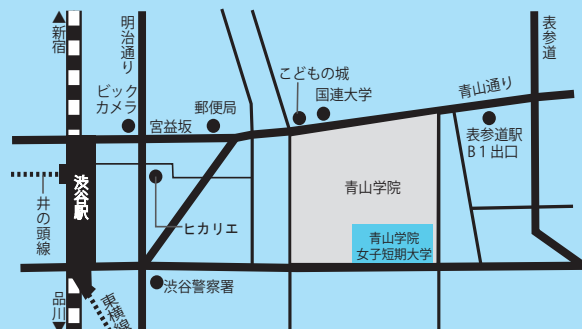
会場地図

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

JR 山手線・埼京線、東急線、京王井の頭線、

東京メトロ副都心線「渋谷」駅より徒歩15分

東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道駅」より
徒歩8分



主催： 一般社団法人日本ペンクラブ

後援：青山学院女子短期大学、一般社団法人日本国際児童図書評議会、一般財団法人出版文化産業振興財団

「世界と日本の子どもの本から3～子どもの本の翻訳を考える」

日本ペンクラブ「子どもの本」委員会では、これまで「世界と日本の子どもの本から」と題したフォーラムを、2011年12月（浜松）と2013年10月（東京）に開催し、子どもの本に関心を持つ多くの方々にご参加いただきました。

日本で出版される子どもの本のうち、実に30パーセントを翻訳作品が占める現状をふまえ、子どもの本の翻訳にまつわる様々な問題や、海外の子どもの本を翻訳出版することの意味、さらにはこれからの展望についてなど、第一線で活躍されている翻訳者をパネリストに迎え、シンポジウム形式で検討を加えます。

<出演者プロフィール>

○アーサー・ビナード

1967年、米国ミシガン州生まれ。ニューヨーク州のコーネル大学で英米文学を学び、卒業と同時に来日、日本語での詩作を始める。2001年に詩集『釣り上げては』（思潮社）で中原中也賞、2005年に『日本語ばかりばかり』（小学館）で講談社エッセイ賞、2007年に『ここが家だーベン・シャーンの第五福竜丸』（集英社）で日本絵本賞、2013年に『さがしています』（童心社）で講談社出版文化賞絵本賞を受賞。『ダンデライオン』（ドン・フリーマン著／福音館）など翻訳絵本の作品も多数。

○宇野和美

出版社勤務を経て、翻訳家を志す。訳書に『かぞくのヒミツ』（イソール作／エイアールディー）、『雨あがりのメデジン』（アルフレッド・ゴメス＝セルダ著／鈴木出版）、『日ざかり村に戦争がくる』（ファン・ファリアス著／福音館書店）など。中南米国籍の在日外国人の子どもたちへの本を通じた支援を目的とする「日本ラテンアメリカ子どもと本の会」でも活動している。

○酒寄進一

和光大学教授。訳書に、『ネシャン・サーガ』シリーズ（イーザウ／あすなる書房）、『ベルリン1919』『ベルリン1933』『ベルリン1945』（コルドン／理論社）、『影の縫製機』（エンデ／長崎出版）、『ロージーのモンスターたいじ』（ヴェヒター／ひさかたチャイルド）、『夏を殺す少女』（グルーバー／東京創元社）、『白雪姫には死んでもらう』（ノイハウス／東京創元社）、『コリーニ事件』（シーラッハ／東京創元社）、『日記は囁く』（アベディ／東京創元社）ほか多数。

○さくまゆみこ

編集者を経て翻訳家になる。青山学院女子短期大学教授。子どもの本を架け橋にしてアフリカと日本を結ぶ「アフリカ子どもの本プロジェクト」代表。著書に『エンザロ村のかまど』（福音館書店）など。訳書に『シャーロットのおくりもの』（ホワイター／あすなる書房）、『リンの谷のローワン』シリーズ（エミリー・ロッダ／あすなる書房）、『宇宙への秘密の鍵』（ホーキング／岩崎書店）、『クロニクル千古の闇』シリーズ（ペイヴァー／評論社）など多数。

○野坂悦子

東京都生まれ。早稲田大学第一文学部に進学し、英文学を専攻。1985年より5年間、オランダとフランスで暮らす。現在は、オランダ語の児童書の翻訳に力を注ぐほか、絵本や紙芝居の文章も手がけている。主な訳書に『フランダースの犬』（ウィーダ／岩波書店）、『小さな可能性』（マルヨライン・ホフ／小学館）、アストリッド・リンドグレーン記念文学賞受賞作家フース・コイヤーによる『不幸な少年だったトーマスの書いた本』（あすなる書房）、『いつもいつまでもいっしょに ポレケのしゃかりき思春期』（福音館書店）、近刊に『あかいほつぺた』（ヤン・デ・キンデル／光村教育図書）など。

○灰島かり

国際基督教大学卒業。化粧品会社のPR誌の編集を経て、フリーライターに。夫の転勤に伴い、イギリスへ。サリー大学ローハンブトン大学院に入学し、児童文学を学ぶ。帰国して子どもの本の翻訳を始めると同時に、白百合女子大学や朝日カルチャーセンターで絵本や翻訳について教える。著書に『絵本翻訳教室へようこそ』『あいうえおの絵本』、訳書に『ケルトの白馬』（ほるぷ出版）などのローズマリ・サトクリフ作品、「びくびくビリー」（アンソニー・ブラウン／評論社）など。

お申込み方法（締め切りは5月10日）

- ① 郵便振替にて、参加費500円をご送金ください。

郵便振替口座 00170-0-280743

加入者名 一般社団法人日本ペンクラブ別段口

※通信欄に「5月17日シンポジウム参加費」と明記の上、ご住所、お名前、お電話番号を必ずご記入ください。

※自己都合によるお申し込み後のキャンセルの場合、参加費の返金はいたしません。ご了承ください。

- ② 着金を確認し次第、入場はがきをお送りいたします。当日はこの入場はがきをお持ちください。

お問い合わせ先： 日本ペンクラブ事務局 電話 03-5614-5391